

移住者・日系人支援と日系社会との連携強化

中南米全体で約213万人の日系人がさまざまな分野で活躍中です。そうした各国の日系社会の存在が日本との強い絆となっています。

JICAは、戦後の国の政策による中南米などへの移住者に対し、移住先国での定着と生活の安定を支援してきました。現在は、日系社会の成熟や世代交代による課題の変化に対応した支援と、日系社会との連携強化に取り組んでいます。

2019年は、日本人のポリビアとペルー移住120周年、ブラジルのアマゾンとコロンビア移住90周年に当たり、各国でさまざまな記念事業が行われました。

主な事業と取り組み

1. 知識普及

JICA横浜の海外移住資料館では、海外移住の歴史や移住者・日系人への理解促進を目的に、移住者の渡航関連記録や移住者からの寄贈資料の常設展示、さまざまなテーマでの企画展示、関連図書・映像資料を収めた閲覧室やウェブサイトによる情報提供と調査研究のほか、修学旅行や校外学習で訪れる生徒向けの教育プログラムを提供しています。2019年度の来館者は4万3,043人、開館以来の来館者は61万人を超えました。

2019年度は、「コーヒーが結んだ日系人と日本」とポリビア日本人移住120周年記念「ポリビアに生きる－日系人の生活とその心－」の企画展示を開催しました。

また、国内外の移住関係資料館とのネットワーク強化に取り組むとともに、散逸の危機にある中南米の邦字紙などの収集・保管を進め、「JICA海外移住懸賞論文」を創

設。第1回は「中南米地域の邦字新聞を活用した日本人移住に関する諸研究」をテーマに論文を募集しました。

2. 移住先国での支援

ポリビアの移住地診療所とブラジルのアマゾン病院の運営、ブラジル、ポリビア、ドミニカ共和国での巡回診療や高齢者福祉事業、ブラジル、アルゼンチン、ドミニカ共和国、ペルー、コロンビアでの継承日本語教育を支援するための事業を助成しました。

3. 次世代の人材育成

体験入学やホームステイなどを通して、日本の文化・社会への理解を深め、日系人としてのアイデンティティを向上させるため、移住者の子孫である中学生、高校生、大学生対象の招へいプログラムを実施し、2019年度は合計100人を受け入れました。

また、日本の大学院で就学する日系人に対する側面的な支援として、滞在費、学費などを支給しています。2019年度は新たに11人を受け入れました。

4. 日系社会との連携

①日系社会ボランティア

日系社会で日系人の人々と共に生活し、日本語教育や福祉などの分野で協力する日系社会ボランティアを派遣しています。2019年度は71名を新たに派遣しました。

また、「現職教員特別参加制度(日系)」を通じて、2019年度は8人の現職教員を派遣しました。帰国後、その経験を生かし、

日本在住の日系人子弟により適切に対応していくことが期待されています。

②日系社会研修

大学、地方自治体、公益法人、民間企業などの提案により、日系社会から研修員を受け入れて、各国の国づくりへの協力と、国を超えた交流の促進を図っています。2018年度からは、対象者を日系人に限定せず、中南米地域の日系社会と日本との連携に主導的役割を果たす方とし、2019年度は合計184人を受け入れました。

③民間セクターなどとの連携事業

日本企業と日系人が経営に携わる企業などとのパートナーシップ促進を図ることを目的とした中南米日系社会との連携調査団を、2019年度はブラジルに派遣しました。その結果、JICA民間連携事業などを活用する企業、または独自で中南米への海外展開や国際協力を行う企業も出てきています。

そのほか連携事業として、ブラジルでは、日系病院を通じた日本の医療技術・サービスの国際展開、サンパウロ大学との共同事業による知日派人材の育成に取り組んでいます。ペルーでは、海外投融資を通じて、ペルーの日系人の互助組合を起源とする信用組合であるAbacoに対し、最大1,000万ドルの劣後融資を供与しました。ポリビアのサンタクルス県では、2019年8月に無償資金協力「オキナワ道路整備計画」が着工し、オキナワ移住地と同県の発展への貢献が期待されています。



ポリビア：コロニア・オキナワ 入植65周年記念式典



ペルー：「日系信用組合を通じた中小零細事業者支援事業」調印式